

Q6 <流れ図②>収集した情報はどのように整理すればよいのでしょうか。



特別支援学級担任

収集した情報が多くて、どのように整理したらよいのでしょうか。



通級指導教室担当

なぜ、自立活動の区分に即して整理するのでしょうか。



特別支援学級担任

「〇〇年後の姿の観点から整理する」とは、どういうことですか。

A 「自立活動の区分に即して整理」「学習上又は生活上の困難の視点で整理」「〇〇年後の姿の観点から整理」の3観点で整理します。

②-1「自立活動の区分に即して整理」とは、障がい名のみによって特定の指導内容に偏ることがないように、対象となる児童生徒の全体像を捉えて整理することを意図しています。その際、自立活動の6区分 27 項目の解説(下記めじろんの台詞参照)を踏まえて整理することが大切です。

(特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編 P156~159 に示されている、読み書き障がいの生徒の例、以下同じ)

【健康の保持】自分の特性(読み書きが苦手)は分かっているが、原因までは理解していない。

【心理的な安定】読み書きの苦手さやそれに対する配慮を友達に知られることは不安である。等

②-2「学習上又は生活上の困難の視点で整理」には、これまでの学習状況を踏まえ、学習上又は生活上の難しさだけでなく、既にできていること、支援があればできること等も記載することが望ましいです。

(例)

・学習においては、読み書きの困難が英語科において顕著に表れているが、日本語においても熟語の読みが苦手なところから、聞く場合でも学年相応の理解ができていないと考えられる。(コ)

・読み書きが困難であることは分かっているが、どのように解決していけばよいかまでは明確には分かっていない。(健、心) 等

※(コ)等は自立活動の区分で、どの区分と関連のある実態かを示しています。(コ):コミュニケーション、(健):健康の保持、(心):心理的な安定、(環):環境の把握、以下同じ。

②-3「〇〇年後の姿の観点から整理」とは、生活年齢や学校で学ぶことのできる残りの年数を視野に入れた整理です。例えば、児童生徒の進学先を見学して、近い将来の生活像をイメージし、卒業までにどのような力を、どこまで育むとよいのかを想定して整理することです。

(例)

・数年後には社会人となり、コンピュータ等の情報機器等を使用することに制限がほぼなくなると考えられる。(健、心、環)

・「将来はタブレット型端末があれば読み書きが苦手でも何とかやっていけそうだ」と本人が思うようになってきている。(心、コ) 等



特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編の P. 50~102 に、6 区分 27 項目の内容が詳しく解説されています。

文部科学省  
「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編」

